**子宮頸がん検診受診について（市町村担当者用）**

* 受診希望の方からの問い合わせの際に参考にして下さい。

＜検診が受けられるかどうかの問い合わせについて＞

**Q1　生理中の方　＜受診可＞**

・生理中でない事が望ましいが、検査時には余分な経血を除去後、細胞を採取するため検査は可能

＜集団検診＞

日程が限定されており、また高知県では婦人科医療機関の無い市町村もあり、住民にとっては受診機会が乏しいと考えられ、できるだけ多くの住民が受診できるよう生理中であっても特に制限はしていない。

＜個別検診＞

各医療機関の方針により対応が異なるため、検診申し込み時に確認。日程調整できる場合は生理を避けたほうが望ましい。

**Q２　性交渉の経験がない方　＜以下を説明した上で本人の判断＞**

・子宮頸がんの原因はHPVウイルスの感染によるものがそのほとんどを占めており、性交渉のない方が子宮頸がんになるリスクは非常に低い。

・しかしHPVウイルス感染以外の原因による子宮頸がんもあり１００％大丈夫とは言えない。

**Q3　子宮摘出された方　＜以下を説明した上で本人の判断＞**

・基本的には、医療機関での経過観察によるフォローの対象となる。

・上記説明後に、検診の受診を希望される場合は、受診可。子宮頸部を残した子宮摘出術では子宮頸がんになる可能性は低い。子宮全摘出術を受けた方では、非常に希に子宮断端癌や膣癌の可能性がある。

**Q4　股関節・膝関節の術後で開脚が困難な方**

＜集団検診＞

検診台にゆっくり上がっていただき看護師の介助のもと可能な範囲の開脚で検診を実施。

場合によっては検診不可能となることもあるが、これまではほとんどの方が実施できている。

＜個別検診＞

ほとんどの場合は受診可能だが、心配な時は事前に問い合わせをしてもらう。

**Q5　車いす、松葉杖、ロフストランド杖等を使用している方**

・検診台に上がることができれば基本的に検診は可能。（介助者の補助で上がることができれば可。）

<検診全般に関する問い合わせについて>

**Q１　バスでの検診は病院での検診と比べて精度が低いのではないか？**

Ａ　バスでの検診も病院と同じ流れで実施している。

子宮頸がんの検診方法は高知県の策定した子宮頸がん検診実施指針により問診、視診、内診、細胞診と定められており、バスの検診も病院の検診も同じ。

視診・内診・細胞採取は専門医により行っており、採取された検体も適切に管理されている。バスと病院で、設備など、検診結果に影響を与えるような差はない。また、細胞診の検査は、バス・病院どちらについても（公財）高知県総合保健協会が実施している。

**Q２　隔年受診の根拠は？**

Ａ　厚生労働省の検討会において諸外国の実施例や実施報告を勘案した上で、隔年受診でも検診の有効性（集団の死亡率の減少効果）は保たれるとの判断から隔年受診となっている。

子宮頸がんは一般的に非常にゆっくりと進行し、前がん段階から浸潤がん(進行がん)になるには2～3年はかかると言われ、子宮頸がん検診を毎年受診した場合と2年に1回受診した場合の検診効果は変らないとされる。

**Q3　受診者から「内診時に痛みがあり、出血も長引いたので嫌だった」と言われた場合は？**

Ａ　子宮頸がん検診では器具を膣内に挿入したり、お腹を押して触診したりするため、痛みを感じることがある。

細胞採取により出血する場合もある。（特に、平成28年度からは採取器具が綿棒からブラシに変更となるため、今までより出血する人が増える可能性がある。）通常は、数日で止まるので過度に心配することはない。

ただし、出血が一週間以上続く場合は何らかの異常も考えられるので、婦人科専門医の受診を勧める。受診時には力を抜いてリラックスするように説明する。